

**【事務事業調査】**

事務事業名	こころの健康づくり推進事業費		予算科目 コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
				001-040102 - 003 - 05 - 01 - 0
担当部課	住民生活部 健康福祉課	担当 サブリター	健康づくり 田中圭子	事業の分類

**事務事業の概要**

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	1歳6か月児健診、3歳児健診、乳幼児相談で育児ストレス対応としての心理相談員による相談を実施する。母子の遊びの教室を毎月定期的で開催する。広報や健康診査結果説明時におけるこころの健康に関する啓発と相談機関の紹介を行なう。こころの相談機関とのネットワークを築き、相談や訪問を実施する。(各相談機関につなげるもの、相談者はまた戻ってきてしまう状況にある。)	増加する育児ストレスへの対応となる。相談しやすい環境を整えることにより、育児ストレスの早期解消につながる。母子の交流や、友達づくりの場となり、母子の引きこもり防止や育児ストレス解消につながる。気軽に相談できる場となり育児不安へ早期に対応することができる。こころのチェックシート等の紹介により、それぞれがこころの健康状態を随時把握することができる。また、事前に相談機関を知っておくことにより早期に対応することができる。相談者のニーズに合わせた相談機関(町、県、医療機関、NPO等)を紹介することにより、早期対応となる。
実績	1歳6か月児健診、3歳児健診、乳幼児相談で心理相談員による心理相談を年36回実施。遊びの教室を乳児期と幼児期の2種類に分けて月2回実施。親子運動教室を年10回実施。自殺対策としてこころの健康を広報にて掲載。県で作成したパンフレットを窓口や教室等で配布。矢板健康福祉センターを中心とした連絡会や関係者の協議会に参加し、管内の関係機関等と検討会を行い、相談や援助体制の整備に向けて準備をはじめた。矢板健康福祉センターでの相談業務を、保健センターを会場に行った。	相談により母親の育児ストレスの軽減につながっている。育児に自信持てたり、受診につながりしている。親子の遊び方の普及や、母同士の交流の場、育児相談の場となり、育児支援につながっている。保護者と保健師の距離が近くなり信頼関係を築きやすくなった。健診の場では見られなかった親子関係を知ることができ、支援するうえで役立っている。近くでの相談は敬遠しがちなので、NPOや県の相談を情報提供することで、自分に合った相談機関を利用することができた。

**活動指標**

指標	目標値	達成値	特記事項
心理相談件数	140件	73件	相談を希望しているも、時間が取れない方もいるため、心理相談員への相談のほか、保健師が対応したり、教室でフォローしたりした。

**事業費(計画)**

細 節	金 額
1 賃金	69,000
2 報償費	544,000
3 消耗品	135,000
4 委託料	576,000
5	
6	
7	
8	
	1,324,000

**事業費(当初予算)**

細 節	金 額
1 賃金	70,000
2 報償費	544,000
3 消耗品	135,000
4 委託料	540,000
5	
6	
7	
8	
	1,289,000

**事業費(実績)**

細 節	金 額	特記事項
1 賃金	46,302	
2 報償費	362,000	
3 消耗品	106,665	
4 委託料	540,000	
5		
6		
7		
8		
	1,054,967	

**事業経費**

		計 画	実 績	特記事項
予 算	当初予算額		1,289,000	
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額		1,289,000	
決 算	決算額		1,054,967	
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計		0	0
	差引(一般財源)	1,324,000	1,054,967	